

木田宏教育資料の利活用のための各情報資源

～利活用の観点での教材化～

谷 里佐

「木田宏教育資料」は、元文部事務次官・故木田宏氏が作成された書籍・資料類やご自宅書庫の所蔵資料、木田氏のオーラル・ヒストリー等により構成され、これらの情報資源は、印刷資料・非印刷資料（映像・音声）、デジタルコンテンツ等、多岐にわたる。いずれにも、木田氏が文部省（現文部科学省）で担当された教科書制度、教育委員会制度の改革等に関わる内容が含まれており、戦後の教育資料として、学部生、大学院生をはじめ、教員やこの分野の研究者等による利活用が可能である。しかし、利活用の観点から見たとき、「木田宏教育資料」が膨大であり、利用者が求める資料に辿り着くための研究ガイドとなる教材化が求められる。そこで、これまで、岐阜女子大学が作成した「木田宏教育資料」の利活用の観点での各情報資源の教材化について報告する。

1. はじめに

「木田宏教育資料」とは、元文部事務次官故木田宏氏の書籍等（「木田文庫」）や木田氏の話の記録（「木田宏オーラル・ヒストリー」）等の資料群を指す。木田氏は、昭和 21 年（1946）に文部省（現文部科学省）に入省され、教科書または教科書制度、教育委員会制度等、戦後の教育に関わられ、文部事務次官、国立教育研究所長、新国立劇場理事長等を歴任され、多くの教育関係の書籍、資料類を残された。それらを木田氏およびご家族のご厚意により、教育研究用として、平成 16 年（2004）に、図書 5, 959 冊、雑誌 4, 188 冊の計 10, 147 冊、平成 24 年（2012）に追加として図書 125 冊の総計 10, 272 冊を岐阜女子大学に寄贈いただいた（その他、ノート、ハガキ類といった史資料も寄贈いただいている）。

この「木田文庫」の中には、昭和 21 年～平成 17 年（2005）頃までの戦後の多様な教育関連資料がのこされている。また、「木田宏オーラル・ヒストリー」の中には、戦後教育に関わられた木田氏の実際の証言として、資料と併せ話された記録が残されている。とくに、戦後の教育改革の時代、教科書制度や教育委員会制度等、木田氏が直接関係された事項や昭和 20 年代の帝国議会、教育基

本法の成立、米国教育使節団等の関連資料が多く保存されている。

これらは、戦後の教育資料として、基礎的な情報資源であり、利活用が可能である。しかし、膨大な数であることや戦後教育史の基礎知識を必要とする内容も多いことから、利活用の視点からの教材化が求められている。本稿では、「木田宏教育資料」の各情報資源の概要と利活用の視点で教材化した内容について報告する。

2. 木田宏教育資料

（1）「木田文庫」

「木田文庫」は、木田宏氏のご自宅書庫に保管されていた木田氏所蔵の書籍、資料類の中から、平成 16 年と平成 24 年に岐阜女子大学へ寄贈いただいたものを指す。とくに、平成 24 年に寄贈いただいた追加書籍、資料類は、歴代文部大臣式辞集、木田氏原稿、憲法関連ノート等の教育行政分野のもののほか、天野貞祐、和辻哲郎、九鬼周造等の著作があり、追加寄贈いただいたご家族のお話しでは、木田氏自身が戦前・戦後から大切に保存されていたものという。

また、「木田文庫」の中には、主に、木田氏の各論文をはじめとして、雑誌、新聞などへの掲載原稿と講演会やシンポジウムの講

演録や祝辞などが収録されている冊子『木田宏教育資料』全15巻（表1）がある。

『木田宏教育資料』は、岐阜大学教育学部附属カリキュラム開発研究センター（現総合情報メディアセンター）にて、平成7年（1995）から数回に分けて実施された木田氏の話の記録と著された原稿などをまとめた冊子である。その膨大な資料群は、編年順で整理されている。

表1 『木田宏教育資料』全15巻リスト

タイトル	収録年
木田宏教育資料1	昭和20年代初期
木田宏教育資料2	昭和25年～昭和34年
木田宏教育資料3	昭和35年～昭和51年
木田宏教育資料4	昭和51年～昭和53年
木田宏教育資料5	昭和54年～昭和55年
木田宏教育資料6	昭和56年～昭和57年
木田宏教育資料7	昭和58年～昭和59年
木田宏教育資料8	昭和60年
木田宏教育資料9	昭和61年～昭和62年
木田宏教育資料10	昭和63年～平成元年
木田宏教育資料11	平成2年～平成3年
木田宏教育資料12	平成4年～平成5年
木田宏教育資料13	平成6年～平成7年
木田宏教育資料14	平成8年～平成10年
木田宏教育資料15	平成11年～平成15年

『木田宏教育資料』全15巻の編集・発行担当は、1～8巻は岐阜大学教育学部附属カリキュラム開発研究センター、9巻は岐阜女子大学文化情報研究センター・岐阜大学教育学部附属カリキュラム開発研究センター、10巻以降は岐阜女子大学文化情報研究センター・岐阜大学総合情報メディアセンター・松下視聴覚教育研究財団（現パナソニック教育財団）である。

これら「木田文庫」の整理にあたっては、歴史・民俗資料などの収集整理において礎とされる“原形保存”・“原秩序尊重”の法則に従い、収集の際に、資料の現状を損なわないよう、書庫の書棚ごとに番号を付与し、

その番号ごとに書籍を箱に入れ、収集し、整理した。これにより、木田氏が管理されていた書庫の状態の把握が可能である。



図1 『木田宏教育資料』

（2）「木田宏オーラル・ヒストリー」

「木田宏オーラル・ヒストリー」は、木田氏の戦後の教育についてのお話をまとめたものである。

前項の冊子『木田宏教育資料』第1巻～第5巻に以下の通り収録されている。

- ・「昭和20年代初期における教育について～憲法，民主主義，教科書制度等～」

（平成7年11月29日・30日）

- ・「教育委員会制度の導入と定着」

（平成8年5月21日・22日）

- ・「教職員組合について」

（平成8年5月22日）

- ・「大学問題への取り組み」

（平成8年9月4日・5日）

- ・「社会教育，体育，国際化等の諸問題」

（平成8年11月22日）

- ・「国立教育研究所時代」

（平成10年1月31日）

さらに、上記の内容について、平成16年6月27日・28日に、岐阜女子大学文化情報研究センターにて再度お話しいただき、木田氏の映像記録を行った。

平成16年の記録は、「木田宏オーラル・ヒストリーデジタルアーカイブ」としてまとめ、文部省（大臣官房）ほかの依頼を受け、DVDの制作と提供を行った。その後、平成

29年には、提示機器の変化に左右されない方法によるデジタルアーカイブの再構成を行った。これらの一部は、岐阜女子大学WEBサイトで公開し、また、教員免許状更新講習等での教育利用を行っている。

3. 利活用の観点での情報資源の教材化

「木田宏教育資料」の各情報資源はいずれも資料的価値が高いが、利活用の観点から見たとき、たとえば学部生、大学院生が研究に必要な資料を抽出し、適切に研究利用するために、「木田宏教育資料」から適切な資料を見出して研究利用することは困難である。

そこで、岐阜女子大学では、木田宏氏と長年交流され、強い信頼関係に結ばれていらっしゃる後藤忠彦先生（元岐阜女子大学学長、現顧問）により、研究利用支援として、「木田文庫」や「木田宏オーラル・ヒストリー」の中から、戦後から現在までの資料を各分野別で抽出し、重要資料の解説等を加えた教材を作成、提供している。

これまで作成、提供を行った教材について、以下まとめる。

【基礎教材】

(1) 木田宏オーラルヒストリーと所蔵資料

発行日：平成17年2月

発行者：日本教育情報学会・岐阜女子大学
総ページ数：155ページ

平成16年6月27日・28日に岐阜女子大学で記録された「木田宏オーラル・ヒストリー」の文字起こしと「木田文庫」の仮目録（登録番号1～5091）の2部構成でまとめられた冊子。

(2) 木田宏教育資料デジタル・アーカイブズ～オーラルヒストリーと所蔵資料～

発行日：平成17年10月

発行者：日本教育情報学会・岐阜女子大学
総ページ数：134ページ

岐阜女子大学が作成した木田宏オーラル・ヒストリーデジタルアーカイブの解説

と「木田文庫」の仮目録（登録番号1～8641）の2部構成でまとめられた冊子。

(3) 木田宏オーラルヒストリー

発行日：平成24年11月

発行者：岐阜大学・パナソニック教育財団・岐阜女子大学

総ページ数：278ページ

岐阜大学で記録された「木田宏オーラル・ヒストリー」と岐阜女子大学で記録された「木田宏オーラル・ヒストリー」の文字起こしをまとめた冊子。上製本と並製本の2種類作成した。

【研究利用支援教材】

(1) 木田宏教育資料案内 (1)

教育実践研究の基礎～教材・教科書・学習指導法・カリキュラム

編著者：後藤忠彦

発行日：平成24年7月

発行者：岐阜女子大学

木田宏著『新教育と教科書制度』は、戦後の教科書制度の出発点を示す資料であり、また、「木田宏オーラル・ヒストリー」をはじめとした各情報資源には、教科書および教科書制度や教材のデジタル化についての重要な証言がある。これらについて、教科書関係の法律や教科書の必要条件、学習指導要領の成立秘話等の観点から抽出し、まとめられている。

(2) 木田宏教育資料案内 (2)

教育基本法関係資料と伝統・文化

編著者：後藤忠彦

発行日：平成24年8月

発行者：岐阜女子大学

「木田文庫」には、旧教育基本法成立時の第62回帝国議会（教育基本法の審議録）、安部能成文部大臣の米国教育使節団に対する“あいさつ”、田中耕太郎文部大臣の論文等の貴重な文献資料があり、それらを抽出し、まとめている。また、これらの資料を用いて、岐阜女子大学沖縄サテライト校の大学院生（当時）が、教育基本法の成立および新教育基本法における課題を研究した事例

を紹介している。



図2 木田宏教育資料案内 (1)・(2)

(3) 戦後どのように教育委員会制度ができたか 木田宏先生（成立当時の文部省担当課長）の証言より

編集：後藤忠彦・松川禮子

発行日：平成26年2月

発行者：岐阜女子大学

岐阜大学・岐阜女子大学で記録された「木田宏オーラル・ヒストリー」の中から、教育委員会制度の成立の経緯に関わる木田氏の話を出し、まとめられている。これらに関わる木田氏の証言を読み解くために、〈参考メモ〉として後藤先生が解説されている。

(4) 戦後の教科書と教育の課題 ～「教科書を教える」から「教科書で教える」(新教育と教科書制度)～

編集：後藤忠彦・生田孝至・松川禮子

発行日：平成26年4月

発行者：岐阜女子大学

岐阜大学・岐阜女子大学で記録された「木田宏オーラル・ヒストリー」の中から、教科書、学習指導要領等に関わる木田氏の話を出し、まとめられている。副題にもある「教科書を教える」から「教科書で教える」では、教科書は学習の目的ではなく一つの手段であるとした木田氏の著書(『新教育と教科書制度』)の指摘であるが、木田氏以後、研究者が教科書について述べるときによく使われている等のエピソードも紹介されている。

(5) 先生にも保護者にも知ってほしい「教科書と教員委員会」

・「木田宏オーラルヒストリー」デジタルアーカイブ～戦後の教育を語る～

編著者：後藤忠彦・松川禮子・谷里佐・加藤真由美

発行日：平成30年8月

発行者：岐阜女子大学

岐阜大学・岐阜女子大学で記録された「木田宏オーラル・ヒストリー」の中から、教育委員会制度や教科書に関わる木田氏の話を出し、まとめた3と4の内容を精選し、再構成したもの。第1部を教科書、第2部を教育委員会と2部構成でまとめている。後藤先生による「木田宏オーラル・ヒストリー」の要点がまとめられた解説も掲載しており、学修や研究のガイドとなっている。実際に、教員免許状更新講習のテキスト等として利用している。

4. おわりに

「木田宏教育資料」は、書籍からオーラル・ヒストリーまで様々な情報資源からなり、利活用の観点か研究利用支援教材とともに提供することにより、学修や研究利用の支援となると考える。

謝辞

「木田宏教育資料」の利活用にあたっては、故木田宏氏はじめご家族および岐阜大学、松下視聴覚教育研究財団(現パナソニック教育財団)等に支援いただきました。そして、「木田宏教育資料」の収集、整理、オーラル・ヒストリー記録、利活用の視点での各教材作成のすべては後藤忠彦先生のご指導とご尽力によるものです。深く感謝いたします。

(本稿は、日本教育情報学会第28回年会の発表原稿を修正し、最新の情報を加えたものである)